

平成 29 年度 長野市消防委員会

◇日 時：平成 29 年 6 月 22 日（木） 午後 1 時 54 分から午後 3 時 45 分

◇場 所：中央消防署 4 階会議室

1 開 会（1：54）

※出席委員 13 名、欠席委員 2 名

2 委嘱状の交付（1：55）

※出席委員 13 名

3 あいさつ（2：01）

※長野市消防局 込山消防局長

※長野市消防団 猪俣消防団長

4 自己紹介（2：07）

※消防委員 13 名、消防団 5 名、消防局 14 名

5 正副会長の選任（2：17）

※会長に矢島忠男様、副会長に阿部たえ子様と宇都宮良幸様が選任され、承認される。

6 会長あいさつ（2：21）

※矢島会長

7 議 事

(1) 平成 29 年度 消防局運営方針について（2：28）

※資料に基づき、込山消防局長が説明

(2) 消防行政の概要について（2：36）

ア 総務関係

※資料に基づき、根岸消防局次長兼総務課長が説明

イ 予防関係

※資料に基づき、松田予防課長が説明

ウ 警防関係

※資料に基づき、原山消防局次長兼警防課長が説明

エ 通信指令関係

※資料に基づき、島田通信指令課長が説明

オ 消防団関係

※資料に基づき、猪俣消防団長が説明

《A委員》

これからの人口減少や都市の施設の老朽化など、様々な課題があると思うが、消防局の課題として一番悩ましいところ、また、どのようなことが一番重要な課題か教えてください。

《込山消防局長》

1つ目の課題としては、救急需要が平成40年頃まで延びていく予測があり、人口は減っているが、一方では増えていく状況です。救急車の適正利用等、広報をしながら取り組んでおりますが、中々減らないのが悩ましいところです。

2つ目は、ロンドンでも高層マンションの火災がありました。消防設備等の不備により大規模な火災になる。或いは、多くの方が犠牲となる火災も年々増えております。

そのような違反對象物をいかに減らすか、ということが非常に大きな課題になっております。

私ども消防職員は、違反對象物に対して、是正していただけるように一生懸命取り組んでいるところです。

もう一つは、消防団の関係でございます。3,430名の定員でほぼ充足している状況ですが、地区によっては、多いところと少ないところがございます。特に山間部では、昼間も夜も含めて、火災があった時の対応が非常に難しい地区もあるのが実情です。

また、装備の面でも、年次計画に基づいて配備しているところですが、予算等の都合もあり、思うように装備の充実がなされていないところも悩みどころです。

《B委員》

消防団の施設を見ると警鐘楼が442箇所ありますが、耐震性が心配だという意見があるのですが、その辺りの調査をしたことがあるのかどうか。

もう1点は団本部の皆さんにお聞きしたいのですが、分団が74個分団ありますが、分団数は適正ですか。

《原山次長兼警防課長》

警鐘楼については、特段、耐震等は行っておりません。各分団に管理をお願いし、管理費をお支払いしている状況です。異常があった場合は、直ちにご連絡をいただき、対応させていただいております。

《猪俣消防団長》

消防団の分団数・人数につきましては、3,430名の定員を何とか確保している状況でございます。全員では3,430名おりますが、欠けているブロック、欠けている分団、また、定員よりも多い分団もございます。

これから山間地における人数が少なくなるという中において、分団の統合という話が出て来ております。具体的な事までは言えませんが、分団を分けて、それだけの人数を確保するということが大変難しいという話がございます。そのような地域が何箇所か出ておまして、やはり山間地域が多い訳ですけれども、同じく街場の地域、消防団が発足した当時の旧長野市の8箇所では、人数的にはいますが、消防団という組織・立場が浸透していない。こんなに長い年月で浸透していないことはないのですが、中中意識がなく、団員が集まりにくいという問題を抱えております。

そのような中で、団の統合、また、定員の見直し、各分団・各ブロックにおける人数（数）を少し分けていくような形も取っていきたいという検討を、本部の中でしているところがございます。

《C委員》

防災市民センターが無くなってしまったのですが、将来的に防災センターを構築するという構想はございますか。

それから、皆さん一生懸命仕事をしていただいているんですが、全体的に消防はPRが下手で、世間に中々知られていかない。そういう意味で、広報関係をもう少し充実していただき、小さな事でもいいからメディア等へどんどん出していただければ、消防団員の募集等にも影響が及ぶと思いますので、力を入れていただけたらいいかなものかと思います。

《込山消防局長》

防災市民センターの再構築につきましては、確かに年間5,000から6,000人訪れまして、防災教育をしていただいていた訳ですけども、防災センターの防災機材が老朽化し、交換するタイミングになっていたのも事実でございます。

そういった中で、新たに防災センターをどうするかという話は今はありませんが、改築するにあたり、防災教育につきましては、出前式で各地域に出向いて行って直接、防災教育をした方が、より幅広い住民の皆さんに教育を出来るのではないかとということが1点。

また、子供たちも訪れていた訳ですが、その点については、それぞれの署所に出向いていただき、消防署で教育をしていただくという形に変わってきております。その他にも市の防災情報システムも構築されましたので、そちらでも教育していただけると伺っております。

また、現在、地震体験車が県に1台ありまして、年間を通して交代で運用させていただいておりますが、長野市として購入し、地域に出向いて教育してはどうかという検討もしましたが、現在は、検討中という状況でございます。

2点目の広報の関係につきましては、メディア等を使えば一番効果的かと思います。費用等の関係もありますけれども、出来るだけお金の掛からない状況を考えさせていただきながら、メディア等と連携を取って広報させていただきたいと思っております。

《C委員》

防災センターは、規模的にも予算的にも相当なお金がかかってしまうので、長野市の危機管理部と提携して、消防だけではなく、長野市全体の運用として考えていただいたら、消防としての負担も少し少なくなると思います。防災センターの教育効果は素晴らしいと思いますので、頑張ってくださいと思います。

(3) その他 (3 : 43)

※事務担当から、平成29年度の主な行事及び消防委員の参加等について説明

8 閉会 (3 : 45)